

小林厚治の、釣り人生。

小林厚治は、数字としての釣果を誇るようなタイプのアングラーではない。しかしそれでも、その数を並べてみたいと思わせるような釣果を上げる。

2012年5月、シマからの70cmの初めてのアカメを皮切りに、10月には同じくシマから87cmのアカメ、1月に97cmのランカーシーバス。そして12月にはついに124cm・34kgの巨大アカメを釣り上げ、さらに同日自己記録となる102cmのシーバスをキャッチするという快挙を成し遂げている。

もちろん高知だけではない。ホームである東京湾釣行の合間に遠征を繰り返し、3月の五島列島でのヒラスネキ82cm、クダイ53cm。10月には沼津の海で140cmのバラムツを釣り上げた。

「仲間に言われたとおりによったおかげです。釣らせてもらったんです」と謙虚に彼は言う。自らの腕を誇る気配は微塵もない。

たしかにどの魚を釣り上げた時も、彼の傍にはその後ろ姿を見守る仲間たちの姿があった。自らのロッドを置いて、ネットを構え、彼が魚を釣り上げるのを待つ仲間たちは小林厚治というアングラーに、心底惚れ込んでいるのだ。

彼は自身のブログでの釣果報告で、「乾杯！」という言葉をも使う。それは決して釣果を誇る言葉ではなく、出会えた魚と、その魚を育んで

くれた海とサポートしてくれた仲間たちへの感謝を表す言葉なのではないだろうか。

「働いて、休みの日に、家族に見送られて釣りに行く。そして釣り場では仲間と楽しい時間を過ごすこと。これが私の永遠のテーマです」小林厚治は、釣りを愛している。

「自分の生活の中で、出来るだけの時間を釣りに費やし、その中で出来るだけ大きな魚に会いたい。数字の目標はありません」小林厚治の釣りに、勝ち負けはない。

そのスタイルは多くのアングラーを魅了し、彼らがまた小林厚治というアングラーの釣りを支えてきた。

そこには、釣りという遊びにのめり込むことで人生そのものを豊かにしてきた人の人間の姿がある。

どこかの水辺でもし、彼に出会ったなら気軽に話しかけてみるといいかもしれない。彼はきっと、多くの釣行と仲間たちとの出会いに彩られた幸せな笑顔で、優しく応えてくれるだろう。ひょっとすると、あなたの釣り人生をより豊かにする何かを見せてくれるかもしれない。

小林厚治というアングラーの、釣り人生に、乾杯しよう。

